

よんでネット*

冬号

発行□茅ヶ崎市立図書館／協力□茅ヶ崎図書館子どもの本の会

「小さな幸せがみっかる 世界のおまじない」

絵 亀井英里



パイナターナショナル
〔147p〕

この本には、人々の暮らしに伝わる、幸せを呼ぶおまじないが50紹介されています。イギリスでは、クリスマスイブにひとこともしゃべらず“ダムケーキ”を焼くと、将来の^{はんりょ}伴侶の頭文字がケーキの表面に現れるんだって！

ドイツでは「トイ・トイ・トイ」と唱えて幸運を祈ります。^{えんぎ}縁起のいい初夢を見るための、日本のおまじないものっていますよ。

「ほんとうの願いがかなうとき」

バーバラ・オコーナー
中野 怜奈 訳

四ツ葉のクローバー、流れ星、赤い鳥…。
願いをかなえてくれる幸運の印。あたしは
4年生の時から、毎日そんな印を探してた。

だって…… 家族がばらばらになり、
会ったこともないおば夫婦の家に来なきゃなら
なくなったあたしには、どうしてもかなえない、
たった1つの願いごとがあったから。



偕成社
〔933p〕

「最後の講義 完全版 どうして生命にそんなに価値があるのか」 福岡伸一

今日あなたが食べたものは、あなたの体の一部になり
代わり、1年もすればあなたの体も脳も今とは別人になって
いる。それでもあなたの記憶は消えたりしない。
生命は不思議だ。

この本は、「最後の講義」をするなら何を語るかという
シリーズの1冊。生物学の第一人者が、人生最後の覚悟で
次世代の若者に贈る「生命の不思議」についての熱い
メッセージである。



主婦の友社
〔4607〕

「ハナコの愛したふたつの国」

シンシア・カドハタ もりうちすみこ訳

第二次世界大戦中、日本はアメリカと
戦った。カルフォルニアでレストランを経営
していたハナコの家族は、日系人として
収容所へ送り込まれ、みじめな生活を
強いられた。そして4年、戦争は終わり、
ハナコたちはお父さんの故郷・広島へ
向かうことになった。日本での楽しい生活
を夢みて 着の身着のままでもどりついた
ハナコたちを待っていたのは……。



小学館
〔933カ〕

「^{さく}朔と^{あき}新」

いとう みく

高速バスの事故で視力を失った兄・^{さく}朔。
バスに乗る原因を作った弟・^{あき}新。
^{あき}新は^{さく}朔への償いから、打ち込んでいた
陸上をやめる。事故から1年、盲学校での
訓練を終え自宅に戻った^{さく}朔は、ブラインド
マラソンの伴走者に^{あき}新を指名する。^{さく}朔の
願いにこたえ、^{あき}新はふたたび走り始める
が……。身体と心を一本のロープに託して
二人は走る。



講談社
〔9131〕